

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02881

研究課題名（和文）小中高英語教育連携によるCLILカリキュラムおよび研修プログラムの開発

研究課題名（英文）Curriculum Development and Teacher Training Program Development in CLIL Courses: Building a Better Collaboration Between Elementary, Junior-High, and Senior-High Schools for the Teaching of English

研究代表者

山野 有紀 (Yuki, Yamano)

宇都宮大学・共同教育学部・教授

研究者番号：10725279

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の小中高の外国語（英語）教育におけるCLILの活用による教科横断的カリキュラムの開発を目指したものである。より具体的には、小中高の各段階において、CLILの原理を取り入れた教育プログラムの構築を行うものであるが、それら教育プログラムにおいては、英語学習と他教科内容とが統合され、また言語活動における思考の深化と協働学習や相互文化理解が促された。本研究は、それら教育プログラムを実際の教育現場に導入することにより、日本の文脈における事例研究を提示しようとするものでもある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新学習指導要領においては、小中高で学びを繋ぎ、教科横断的カリキュラムマネジメントによる学習効果の最大化を図ることが求められている。しかし、それを外国語教育でどのように実践するかの具体は示されていない。本研究は、小中高の指導教諭が教科横断的に学びをつなげ、真正性の高い内容を通じた言語活動で、多様な学習者の興味や関心を引き出し、思考活動と協働学習により授業への主体的関わりを高め、英語での意味ある対話や深い学びを促す授業実践を試みたものである。研究成果として、小中高を繋ぐ教科横断的カリキュラムマネジメント実現に資する実践事例を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to develop a cross-subject curriculum with the use of CLIL (Content and Language Integrated Learning) for English language teaching in the context of Japanese elementary, middle, and high schools. In more concrete terms, it tries to construct learning programs based on the principles of CLIL for each stage of the said schools. In these programs, English language teaching is integrated with the contents of other subjects, and deep thinking in language activities, collaborative learning, and inter-cultural understanding are promoted. Furthermore, this study aims to offer some interesting case studies by introducing the relevant programs into Japanese classrooms.

研究分野：英語教育研究

キーワード：CLIL 小中高連携 外国語教育 教科横断的カリキュラム 教員養成プログラム開発 教員研修プログラム開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初には、2020 年度に施行が始まる新学習指導要領において、学習者の「生きる力」の定義がなされ、「主体的・対話的で深い学び」と「教科横断的カリキュラムマネジメント」の実現により、学習者一人一人の特性をいかし伸ばすことのできる教育が希求された背景があった。実際に、外国語教育においても、小中高連携による教育の必要性和、教科横断的カリキュラムマネジメントを考慮した授業内容に関する示唆が示されており、「学びを縦断的かつ横断的にどのように深め、繋げることができるか」という問いへの探究が、本研究の目的となった。そこで、ヨーロッパを起源として発展してきた、外国語教育と他教科の内容を統合し、さらに学習者の興味・個性・認知的発達などを考慮のうえ、相互文化理解と協同学習を促す CLIL (Content and Language Integrated Learning) を活用することとした。研究当初の日本における CLIL 研究は、小学校、中学校、高等学校など、各学校種別に広がりをもって行われていたが、小中高を繋ぐ視点を考慮した CLIL 実践研究は、少ない状況にあった。

2. 研究の目的

上記の研究背景を鑑み、本研究は、小中高の外国語教育連携と、教科横断的カリキュラムマネジメントの実現に資するべく、日本の教育文脈にそう CLIL によるプログラムの開発を第一義の目的とした。それを教員養成および研修プログラムへも活用すべく研究を進めることとした。

3. 研究の方法

本研究は、小中高英語教育連携による CLIL プログラム構築を目指した探索的実践研究である。そこで、先進的取り組みが行われている海外での CLIL 教育について実地調査を行い、日本の文脈に合った CLIL プログラム作成の参考とすることとした。そして、小中高の教員と大学教員が協働し、実践に基づく CLIL プログラムを構築することとし、それを教員養成・研修プログラムにも活用した。CLIL プログラムについては、実践における学習者のポートフォリオ分析や質問紙調査、研究者の授業観察、授業者の省察を、またそれをいかした教員養成・研修プログラムにおいては、受講後の意見・感想についてアンケート調査を行い、本研究成果および課題について考察を行った。

4. 研究成果

研究成果を述べるにおいて、2019 年度からのコロナ禍における研究遂行の困難性について言及をしなければならない。コロナ禍においては、通常授業の実施も難しい状況となり、プログラム構築および再考のための CLIL 授業実施が大変厳しい状況となったこと、また海外実地調査も難しい状況となり、当初の研究予定通りの実施とならなかったことを報告せざるを得ない。この点を踏まえつつ、以下に研究成果を述べる。

(1) 海外実地調査結果：フィンランドのバイリンガル教育視察報告

本研究の研究分担者である坂本ひとみ氏は、フィンランドのセイナヨキ市のバイリンガル教育の授業を、小学校、中学校、高校において見学し、現地の教員の講演を聞き、意見交換をする機会を持った。

まず最も示唆深い教育実践として、生物の進化がテーマであった中学 2 年生の「生物」に関する授業について、ICT 教材の有効的活用と、生徒の主体的学習を促す授業プロセスの詳細を報告している。第一に、生徒たちはスマートフォンを持って学校近くの森をグループごとに巡る。そこで設定された地点で足を止めて、スマートフォンの画面に出てくる英語の設問を読み、タスクを行う。タスクの一つは、苔を探して写真を撮り、それをアップすることであり、このタスクをクリアすると、生徒たちはさらに次の地点へと移動する。途中で教師による英語の口頭の説明も入り、どのような場所に苔があり、生物が進化していくかを、言語と内容を統合し体験的に理解していく CLIL の授業であった。このゲーム的なアプリはフィンランド人の「生物」の教員によって開発され、英語に関してはアイルランド人の教員が行い、生物と英語の教員連携によるペアでこの授業を担当している。日本の文脈においても実現可能な授業プロセスであり、今後の ICT 教材の活用と CLIL 授業実践ための参考事例となりうる。

次に、現地の教員たちと意見交換から、教員間の協力が円滑に行われていることと、教員同士でカリキュラムの改善を楽しんでいる様子が観察された。フィンランドの教員は、修士以上の学位を有しており、ナショナル・コア・カリキュラムに沿ってさえいれば、教材や授業方法などの自由裁量が大いに認められている。特に、実際の授業においては、生徒にたくさんの「なぜ？」の質問を出し、クリティカル・シンキングの力を養うことを重視しており、これは CLIL 授業における思考を深める発問に繋がっていく。これらにより、知識の詰め込みによる授業から脱却し、子どもたちの「なぜ？」を出発点とし、学習者の主体性を育む学習活動を組み立てることが重要な視点だと示唆がなされた。

(2) 小中高 CLIL プログラム構築と実践

本研究において、小中高 CLIL プログラム構築に向けて実践された主な授業について、CLIL の要となる 4Cs とよばれる構成要素：Content (内容)・Communication (言語)・Cognition (思考)・Culture (文化/協同学習) に基づいて、以下にまとめる。

	内容(総合教科)	言語	思考	文化・協学
小学校 1年生	ゆめのどうぶつえんをつくろう。 (生活科・総合学習)	動物名(elephant, panda, lion等) What is this? What animal do you want?	理解・応用 創造(動物園をつくる)	動物の鳴き声が言語によって異なることを知る。クラス全員での夢の動物園を創作する。
小学校 3年生	色から世界を知ろう。 (図工・道徳)	色(Red, yellow, blue, skin color等) What color is this? Can you guess?	推測・応用 分析(世界の色の使用について,ALTの先生や友だちとともに考える)	世界のポストの色等を推測しながら,国によって色の使用が異なることを知る。また肌の色から多様性を考える。
小学校 3年生	What's this? 好きな虫はなにかな? (理科)	数(one~twenty),身体 の部位(head, leg等) 虫の名前(ant, beetle, pill bug, grasshopper 等) How many legs? What's this? It's a/an ~.	理解・応用 推測・分析 創造(好きな生きもののクイズをつくる)	理科での生き物の学びをいかして,グループで虫クイズを作り,クラスでクイズ大会をする。世界には様々な生物がいることを知る。
小学校 5年生	Time & Life -時間と生活:身近な人々と世界の子どもたち- (社会科・道徳)	生活を表現する動詞 (get up, go to school, eat breakfast, go home, take a bath, do my homework, do my housework等) 頻度の副詞(always, usually, sometimes, never等) What time do you ~? I go to school at ~.	理解・適用 推測・分析 比較(社会に働く身近な人々や世界の様々な国々の子どもたちの生活について推測,分析し,自分の生活と比較する)	地域で働く身近な人々や世界の様々な国々の子どもたちの生活について,時間の学びから分析し,自分の生活と比較して,時間や生活,生き方について考える。
小学校 6年生	食料を通して世界のつながりを考え,メニューを発表しよう (社会科・家庭科・算数・総合学習)	Let's eat ~. Where is ~ from? It's from 地名・国名	理解・応用 比較・創造 (地元の特産野菜を入れたメニューを考える。その際,比較すると輸入した食料の方が予算が安くなること等を知り,地産地消の視点を取り入れる利点についてよく考え,メニューを創作する。)	食料をとおして,世界とのつながりを考え,最終活動として,グループで考えた,地産地消の視点を取り入れた,メニューを創作発表する。
中学校 1年生	Sports for everyone. (体育・社会科・道徳・総合学習)	動詞(play soccer, do karate等) Can you/he/she ~? What can you/he/she do? How do you feel?	理解・応用 推測・比較 創造 (パラリンピック・総合学習とつなげ,障害者や高齢者とともに生きるために,自分になにができるのかを英語で考える。	グループやクラスで考え,パラリンピックを通じた国際理解と高齢者や障害者理解を促す。同時に,人とではなく,幼少期の自分自身と比べて,現在の自分ができるように

			同時に自己の成長についてもメタ認知を促す。）	なったことから自己成長を認識した上で、様々な人々とともに生きるためにできることを考える。
中学校 2年生	平和について考えるー少年兵だったカンボジア人男性の生き方から (社会科・道徳)	名詞 (mine, solder, war, Cambodia, peace 等) 接続詞 that/when, I think that ~ / I hope that ~ / 不定詞/ I want to ~	理解・分析・比較 (地図・写真・映像等からカンボジアについて推測・理解する。同年代の少年兵の現状に関する映像から、現在の自分と比較し、考えを述べる。)	世界地図やカンボジアの世界遺産の写真、地雷や同年代の少年兵の映像から戦争について、現在の自分と比較しながら理解を深め、平和について考える。
中学校 3年生	Time & Life -時間と生活: 広島原爆から世界紛争を通してー (社会科・道徳)	What time is it? Yes, it's 8:15 A.M. What does it mean? What's the difference? Why do you think so? What can we do to bring peace to the world? It is ~for (人など) to 動詞の原形.	理解・分析・比較 創造 (爆弾を投下するモバイルゲームと、広島原爆の共通点と相違点を考える。世界の紛争の原因について分析し、世界が平和になるためにできること、重要なことを考える。)	国際紛争に関する問題について、モバイルゲームと広島原爆投下の共通点と相違点や紛争の原因を考えさせ、自分事として捉えさせる。それをもとに、グループで世界平和のためのメッセージを考え、クラスで発表する。
高校 1年生	Time & Life -時間と人生: マラさんの国連スピーチから、一番大切なものについて考えるー (地理・公共・政治経済)	terrorism, weapon, poverty, injustice, ignorant, illiteracy 等 S+V (=be 動詞) +C (= that 節) S+V+O (= that 節, 疑問詞節) S+V+O+O (= that 節, 疑問詞節)	理解・応用 分析・創造 (マラさんの国連スピーチの背景について、識字率のグラフや男女格差を現す写真映像とともに、地理・公共・政治経済の学びと繋げながら、理解する。スピーチの言葉が発せられた理由を分析し、マラさんにとって一番大切なものを理解する。その上で、自分にとって大切なものを考える。)	国際社会における問題(貧困, 教育問題, ジェンダー格差)について理解し、自分たちと同じ年齢で、その問題と対峙した16歳のマラさんのスピーチから、彼女の人生と一番大切なものを知る。その上で、高校1年生の今、これまでの時間を振り返り、人生で一番大切だと思うものを考え、グループ、クラスで共有する。
高校 2年生	サンゴの生態と保全 ー珊瑚礁保全と世界のサンゴの白化問題について考えるー (水産科専門科目海洋環境学・生物・音楽)	coral reef, spawn, global warming 等 過去完了形 look like ~ Why had so much coral reef turned white and dead? How would the sea look like without coral?	理解・推測・分析 (珊瑚の生態と世界の珊瑚の白化問題について、映像や白化したサンゴの原因を分析し、自分たちにできることを考える。)	珊瑚の生態の不思議と海洋環境におけるサンゴの役割をクラスやグループで意見を共有し、世界の海洋汚染問題について考える。

高校 3年生	「まちづくり」 について考える 鉄道の歴史か ら－ (世界史・地理) 英語科教員と地 歴科教員のコラ ボ授業	Automobile, transit, street car, transportation 等, 仮定法過去 S+V+O+C (= 原形不定 詞・現在分詞・過去分詞)	理解・応用・分析 評価・創造 (公共交通とま ちづくりの関 わりや鉄道の歴史 について理解す る。まちの発展 の持続可能性に ついて考える。 自分が知事であ ったら、まちの ために何がした いかを考える。)	英語科教員と地 歴科教員の連携 授業。21世紀 の今、自分たち のまちに開通す る LRT と、イン ドの鉄道と産業 革命の歴史につ いて知り、資本 主義の負の側面 について理解し た上で、公共交 通とまちづくり の関わりの未来 について考える。
-----------	---	--	---	---

上記の中で、特に小学校5年、中学校3年、高等学校1年の授業は、小中高でテーマを「Time & Life 時間と生活・人生」で統一して学びを繋げ、それぞれの発達段階で内容・言語・思考活動・文化/協学が深まることを目指し、構築されたものである。その実践における学習者のポートフォリオ、授業観察および指導者の省察から検討した結果、CLIL が外国語教育を中核とした教科横断的カリキュラムマネジメントの実現と、小中高の一貫性のある英語教育の実現に資する可能性が明らかになった(渡邊, 山野他, 2019)。特に、以下の3点を促す可能性が示された。

真正性の高い他教科内容と統合したインプットによる、多様な学習者の興味・関心の高まり
必然性のある発問を通して、学習者の高次思考力を要するやり取り
英語を学ぶ意義に繋がる、国際的課題について考える協同学習によるアウトプット活動。

しかし、これらを実践するための小中高外国語教員と他教科教員との連携のための時間調整、特に実践に向けての教材研究と言語活動の創出のための検討における負担の大きさは、課題となった。

(3) CLIL による教員養成課程および教員研修プログラム開発

(2) に示した小中高上記の本研究成果である CLIL プログラムを活用し、2019 年から 2022 年に、本研究代表者が主体となり、研究協力者である実践者(小中高教員)の協力を得て外国語の教員養成課程講義(全受講生 125 名)、および小中高現職教員研修(全受講生 107 名)を行った。プログラム構成は、外国語教育での小中高連携と教科横断的カリキュラムマネジメントの意義、小中高 CLIL プログラムによる実践紹介・授業説明、CLIL の基盤となる理論と新学習指導要領との関連に関する解説、CLIL 授業および教材づくりについて考える(このについては、時間的制約により割愛される場合もあった。)、質疑応答である。

上記プログラム開発においては、実践に基づき理論を説明する形とし、参加者自らが帰納的に CLIL について学ぶ機会を提供できるように考慮した。その学びに基づき、それぞれの学校で活用できるように、授業づくりについても考える機会を持つようにした。上記の講義受講生および研修参加者に、学びの感想についての自由記述方式によるアンケート調査を実施した。そのデータを KH Corder (樋口, 2020) を使用し、テキストマイニングによる分析を行った。その結果、教員養成講義受講者の分析結果は、英語・他教科・授業・できる・感じる・考える、小学校・中学校・高校・学び・つながる・大切、世界・知る、の抽出語彙が強い共起ネットワークとして示された。教員研修参加者の分析結果としては、CLIL・学び・つなぐ・考える、小中高・英語・他教科・つなげる、具体・理解・しやすい・できる・感じる、の抽出語彙が強い共起ネットワークとして示された。上記より、CLIL が小中高連携と、英語教育における教科横断的カリキュラムマネジメントの授業づくりに貢献しうる可能性が明らかになった。

(4) まとめ

本研究は「小中高英語教育連携による CLIL カリキュラムおよび研修プログラムの開発」と題し、日本の小中高の外国語教育連携と教科横断的カリキュラムマネジメントの実現に資するべく、外国語(英語)教育の実践に基づき、その具体的な方策の探究を目的としたものである。本研究における全実践において、CLIL の根幹にある 4 つの要素、言語・内容・思考・協同学習/相互文化理解を取り入れ、小中高さまざまな文脈での CLIL 授業を行い、それをいかした研究発表および教員養成課程における講義や教員研修会での活用を行ってきた。これにより小学校の初学者レベルから中学校、高等学校へと、内容と言語を統合し、思考も深化していく CLIL の英語教育での実現を、日本の文脈でどのように行っていくかについての事例を示すことができたと言えよう。最後に、課題となったコロナ禍での授業実施の制約およびプログラム構築の教員間の負担を鑑み、本プログラムを基盤とした再考およびプログラムの拡充を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 坂本ひとみ	4. 巻 619
2. 論文標題 人とつながる力、世界とつながる力をつけるCLIL –すべての子どもが輝く英語授業をめざして–	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新英語教育	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ、滝沢麻由美	4. 巻 第30号
2. 論文標題 CLILによるグローバル・コンピテンス育成の試み –アイアーンの国際協働学習を通して–	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 254-270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24547/00000815	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 篠大雄，山野有紀	4. 巻 8号
2. 論文標題 英語の文法や文構造を正しく運用する力を育成するための指導に関する一考察–協働的ライティング活動とフィードバック研究を通して–	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇都宮大学共同教育学部実践紀要	6. 最初と最後の頁 403-410
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 笹島茂	4. 巻 5
2. 論文標題 CLIL の楽しみ(5) 学び(learning, study)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J-CLIL New Letter	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 笹島茂	4. 巻 6
2. 論文標題 CLIL の楽しみ(6) トランスランゲージング (translanguaging)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J-CLIL New Letter	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷光生	4. 巻 20
2. 論文標題 Black Lives Matterの言語学 訳文の検討と試訳の提示	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語英米文学論輯	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷光生	4. 巻 33
2. 論文標題 令和の英語教育に向けて 理論言語学からの視座	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ニュー・サポート 高校英語	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ	4. 巻 609
2. 論文標題 パラリンピックをテーマとして ~の学童クラブと福島のユネスコスクールで実践した人権教育~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新英語教育	6. 最初と最後の頁 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ	4. 巻 619
2. 論文標題 人とつながる力、世界とつながる力をつけるCLILーすべての子どもが輝く英語授業をめざしてー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新英語教育	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野有紀	4. 巻 1
2. 論文標題 中学校英語教育におけるCLILの実践と可能性について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2019年度 発達障害に関する教職員等の理解開発・専門性向上事業報告書	6. 最初と最後の頁 28-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里、山野有紀	4. 巻 第7号
2. 論文標題 教科横断的な視点に基づく小学校教員養成カリキュラムの 開発のための教科間連携研究(6) - 小学校外国語活動と国語の連携授業(2) -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 437-442
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山野有紀 他6名	4. 巻 2
2. 論文標題 外国語教育における効果的な小中連携実践の探究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇都宮大学共同教育学部・附属学校園連携研究プロジェクト研究概要集	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田香緒里・山野 有紀	4. 巻 6
2. 論文標題 教科横断的な視点に基づく小学校教員養成カリキュラムの 開発のための教科間連携研究(4) 小学校外国語活動と国語の連携授業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 447-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊 聡代・山野 有紀・安納久美子・須藤美恵子	4. 巻 6
2. 論文標題 内容言語統合型学習(CLIL)による小中高をつなぐ授業実践 思考を深める発問の工夫	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部教育実践紀要	6. 最初と最後の頁 493-496
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山野有紀	4. 巻 760
2. 論文標題 これからの小学校外国語教育ーすべての児童の学びのためにー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 下野教育	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷光生、山野有紀	4. 巻 69
2. 論文標題 英語教育における英語の詩と詞ー小中高連携に向けた理論と実践ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 103-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田真	4. 巻 2
2. 論文標題 MYPにおける形成的フィードバックの原理と実践：評価コメントの分析と活用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ、滝沢麻由美	4. 巻 27
2. 論文標題 オリンピック・パラリンピックをテーマにした国際理解教育-CLILによる英語授業実践-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 139-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24547/00000143	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山野有紀	4. 巻 38
2. 論文標題 小学校でのCLILに基づく授業展開-その可能性と課題-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第38回全国大会資料集	6. 最初と最後の頁 73-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山野有紀	4. 巻 17
2. 論文標題 CLILに基づくユニバーサルデザインの視点を取り入れた英語教育-多様な学びに考慮した小学校を基点とする英語教育を考える-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第17回小学校英語教育学会 (JES) 兵庫大会要綱集	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田浩司、山野有紀、岡本朋子、鋪屋佳子、渥美光子、村上加代子	4. 巻 26
2. 論文標題 英語教育におけるユニバーサルデザインとアクティブラーニングー多様な学びに寄り添い、小中高をつなぐ英語授業づくりと実践ー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本LD学会代々26回大会（栃木）プログラム	6. 最初と最後の頁 43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏木賀津子、伊藤由紀子、李静香、村上加代子、山野有紀、犬塚章夫、安達理恵、小林祐美子	4. 巻 47
2. 論文標題 言語習得からみる小中連携の英語指導ー文の仕組みへの気づき・音声から文字へ・CLILー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第47回中部地区英語教育学会長野大会要項	6. 最初と最後の頁 73-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷光生	4. 巻 68号
2. 論文標題 英語の『名詞＋名詞』連鎖とその指導	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宇都宮大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 157-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ	4. 巻 576
2. 論文標題 小学校外国語活動における協働学習 CLIL と MI の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新英語教育 8月号	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本ひとみ、滝沢麻由美	4. 巻 5
2. 論文標題 オリンピック・パラリンピックをテーマにした国際理解教育のためのCLIL授業実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JACET 言語教育エキスポ 予稿集 2017	6. 最初と最後の頁 84-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計51件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 小学校英語教育におけるCLIL実践
3. 学会等名 外国語教育メディア学会第60回全国研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 UD の視点を取り入れた CLIL (内容言語統合型学習) の指導実践
3. 学会等名 ユニバーサルデザイン英語研究学会教育による養成課程学生を対象とした研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤茂夫・入山満恵子・山野有紀・谷川美記子
2. 発表標題 大学の教員養成課程における カリキュラムの提言 ~多様な特性を持つ子どもたち の学びを支えるために~
3. 学会等名 英語教育 ユニバーサルデザイン研究学会 第3回 研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本ひとみ・滝沢麻由美
2. 発表標題 アイアーンの国際協働PBLを通じたグローバル・コンピテンス育成の試み
3. 学会等名 小学校英語教育学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田真
2. 発表標題 CLIL（内容言語統合型学習）における言語意識と英語表現
3. 学会等名 英語表現学会シンポジウム「英語表現と教育：授業と学習法を中心に」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 New Horizon Elementary-小学校英語の向こう側 Over the Horizon-
3. 学会等名 日本CLIL教育学会小中部会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 日本の小学校外国語教育におけるCLIL－CLILと小学校外国語検定教科書－
3. 学会等名 日本CLIL教育学会小中部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 CLILとはなにか
3. 学会等名 英語教育ユニバーサルデザイン研究学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山野有紀・渡邊聡代・安納久美子・須藤美恵子
2. 発表標題 小中高連携によるCLIL実践報告
3. 学会等名 日本CLIL教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 CLILによる 学びをつなぐ 小学校外国語教育 全ての児童の「生きる力」を 育む学びのためにー
3. 学会等名 岩手大学附属小学校オープンフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 これからの外国語教育 CLIL（内容言語統合型学習）による 授業 実践とその可能性-
3. 学会等名 国際教育研究所・日本CLIL教育学会 共催研究セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 中学校英語教育におけるCLILの実践と可能性について
3. 学会等名 日本LD学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 教科横断的授業づくり すべての児童の「生きる力」を育む学びの 実現のためにー
3. 学会等名 東京都小学校英語教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 CLILによる教科横断的授業づくり すべての児童の「生きる力」を育む学びの実現のためにー
3. 学会等名 小学校英語教育学会北海道大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 New Horizon Elementary をC L I Lの枠組みでどう教えるか
3. 学会等名 JSHINE研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 フィリピンとベトナムにおける英語教員セミナー講師としての実践授業 - アジアの物語をCLIL授業の内容として -
3. 学会等名 日本CLIL教育学会国際大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 福島県の小学校で児童英語教育ゼミの学生と実践したCLIL授業
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 月例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 Teaching ESD at a UNESCO school in Fukushima
3. 学会等名 45th Annual International Conference of The Japan Association for Language Teaching(JALT)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 福島の公立小学校におけるCLIL授業実践 - 英語劇『スイミー』 -
3. 学会等名 小学校英語教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷光生
2. 発表標題 "A beautiful two weeks" and its kin: variations in form and meaning
3. 学会等名 京都女子大学英文学会 年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 J-CLIL－小中部会のこれから－
3. 学会等名 日本CLIL教育学会第一回小中部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野有紀、湯澤康介、松浦好尚、大金創太
2. 発表標題 小学校外国語教育におけるCLIL - 栃木県の事例から－
3. 学会等名 日本CLIL教育学会第一回国際大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuki Yamano
2. 発表標題 CLIL activities for early EFL education
3. 学会等名 大学英語教育学会第57回国際大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野有紀、谷光生、鈴木久子、宮田一士、一柳啓子
2. 発表標題 小学校外国語教育のための活動・評価・研修の実際 多角的観点からの小学校英語
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柏木賀津子、山野有紀、村上加代子、工藤泰三
2. 発表標題 小中校大連携の英語とCLIL - 思考力と4技能5領域統合へのTrack -
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 中学校英語教育におけるCLILの実践と可能性について
3. 学会等名 日本LD学会新潟大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 読み・書きに繋げるための小学校英語教育における コミュニケーション活動
3. 学会等名 日本LD学会新潟大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山野有紀、森田香緒里
2. 発表標題 小学校外国語教育と国語教育の連携
3. 学会等名 日本国語教育学会栃木大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeru Sasajima
2. 発表標題 CLIL principles and ideas in diverse contexts
3. 学会等名 大学英語教育学会第57回国際大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笹島茂
2. 発表標題 小学校英語教育－指導と評価
3. 学会等名 東京都武蔵野市立第一小学校研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Ikeda
2. 発表標題 Visible language pedagogy ' in content-oriented learning
3. 学会等名 2018 International Forum on CLIL（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Ikeda
2. 発表標題 CLIL for challenges and changes in English language education in Japan
3. 学会等名 北東アジア英語教育学会 (NEAR) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 小学校高学年を対象としたCLIL授業実践 オリンピック・パラリンピック開催国ブラジルをテーマとしてー
3. 学会等名 日本CLIL教育学会第一回国際大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 小学校3年生を対象としたCLIL授業ー大豆をテーマとしてー
3. 学会等名 小学校教育学会長崎大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 シリア難民の子どもたちの声を聞こう！
3. 学会等名 新英語教育学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 Pluriliteracies --CLIL for deep learning--
3. 学会等名 小学校テーマ別英語教育研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hitomi Sakamoto
2. 発表標題 Let's listen to Syrian refugee children!
3. 学会等名 JALT National Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 英語で家庭科、そして異文化交流
3. 学会等名 大学英語教育学会・言語教育エキスポ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 福島県須賀川市白方小学校における外国語活動実践報告
3. 学会等名 福島ESDコンソーシアム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 小学校でのCLILに基づく授業展開ーその可能性と課題ー
3. 学会等名 児童英語教育学会第38回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 CLILに基づくユニバーサルデザインの視点を取り入れた英語教育ー多様な学びに考慮した小学校を基点とする英語教育を考えるー
3. 学会等名 第17回小学校英語教育学会 (JES)兵庫大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 日本の英語教育におけるCLIL活用による実践とその可能性
3. 学会等名 上越英語教育学会 第21回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原田浩司、山野有紀、岡本朋子、鋪屋佳子、渥美光子、村上加代子
2. 発表標題 英語教育におけるユニバーサルデザインとアクティブラーニングー多様な学びに寄り添い、小中高をつなぐ英語授業づくりと実践ー
3. 学会等名 日本LD学会代26回大会 (栃木)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山野有紀
2. 発表標題 CLILでつなぐ 小中高の英語授業づくり
3. 学会等名 平成29年度 CLIL研究発表 宇都宮大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 笹島茂
2. 発表標題 CLIL can vary in each teacher and learner
3. 学会等名 18th WORLD CONGRESS OF APPLIED LINGUISTICS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 笹島茂
2. 発表標題 Awareness of translanguaging CLIL-type pedagogy
3. 学会等名 18th WORLD CONGRESS OF APPLIED LINGUISTICS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田真
2. 発表標題 CLILで育つ学力：言語知識から汎用能力まで
3. 学会等名 日本CLIL教育学会西日本支部第1回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田真
2. 発表標題 CLILによる『主体的・対話的で深い学び』
3. 学会等名 平成29年度 CLIL研究発表 宇都宮大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田真
2. 発表標題 CLILにおける『統合』とは? : 『見える指導』による内容と言語の統合
3. 学会等名 日本CLIL教育学会 CLIL Seminar: Diverse Attempts at Integrated Learning
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 Global Greenglish Project Using CLIL
3. 学会等名 The 5th BOLT / UD-Language Teaching Conference University of Danang (Vietnam) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂本ひとみ
2. 発表標題 Promoting ESD at a UNESCO School in Fukushima
3. 学会等名 JALT 国際大会 つくば(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 NHK基礎英語 0 制作班・山野有紀他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 NHK基礎英語 小学生の英語のギモン相談室	

1. 著者名 奈須正裕・池田真ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 185
3. 書名 「少ない時数で豊かに学ぶ」授業のつくり方：脱「カリキュラム・オーバーロード」への処方箋	

1. 著者名 伊藤裕美子・谷光生ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 174
3. 書名 New Favorite: English Logic and Expression (令和4年度本) (文部科学省検定済 英語教科書)	

1. 著者名 栗原文子・谷光生ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 198
3. 書名 Enrich Learning: English Communication I (令和4年度本) (文部科学省検定済 英語教科書)	

1. 著者名 浅見道明・谷光生ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 190
3. 書名 Power On: Communication English I (令和4年度本) (文部科学省検定済 英語教科 書)	

1. 著者名 長瀬慶來教授古希記念出版刊行委員会 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪教育図書	5. 総ページ数 349
3. 書名 英語音声学・音韻論 - 理論と実践 -	

1. 著者名 池田真, 坂本ひとみ, 山野有紀 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 167
3. 書名 New Horizon English Course 1	

1. 著者名 池田真, 坂本ひとみ, 山野有紀 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 159
3. 書名 New Horizon English Course 2	

1. 著者名 池田真, 坂本ひとみ, 山野有紀 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 155
3. 書名 New Horizon English Course 3	

1. 著者名 笹島茂、山野有紀編著、坂本ひとみ他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 202
3. 書名 学びをつなぐ小学校外国語教育のCLIL実践	

1. 著者名 綾部保志編・山野有紀他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学校英語への専門的アプローチ ―ことばの世界を拓く―	5. 総ページ数 312
3. 書名 春風社	

1. 著者名 鈴木渉・西原哲雄編・山野有紀・坂本ひとみ他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 212
3. 書名 小学校英語のためのスキルアップセミナー	

1. 著者名 樋口忠彦編・山野有紀他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 227
3. 書名 小学校英語内容論入門	

1. 著者名 Tsuchiya, K., & Dolores, M. (Edts.), Yamano, Y. Sasajima, S.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 417
3. 書名 Content and Language Integrated Learning in Spanish and Japanese Contexts	

1. 著者名 Banegas, D. (Ed.), Ikeda M.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 267
3. 書名 Content knowledge in English language teacher education: International insights	

1. 著者名 Reinders, H., Ryan, S. & Nakamura, S. (Edts.), Ikeda, M.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 295
3. 書名 Innovation in language teaching and learning: The case of Japan, Cham, Switzerland	

1. 著者名 東洋学園大学 ことばを考える会（著者：坂本ひとみ）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 338
3. 書名 ことばのスペクトル 越境	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 真 (Ikeda Makoto) (10317498)	上智大学・文学部・教授 (32621)	
研究分担者	谷 光生 (Tani Mitsuo) (90302439)	京都女子大学・文学部・准教授 (34305)	
研究分担者	笹島 茂 (Sasajima Shigeru) (80301464)	東洋英和女学院大学・国際社会学部・教授 (32718)	
研究分担者	坂本 ひとみ (Sakamoto Hitomi) (10205776)	東洋学園大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授 (32520)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------